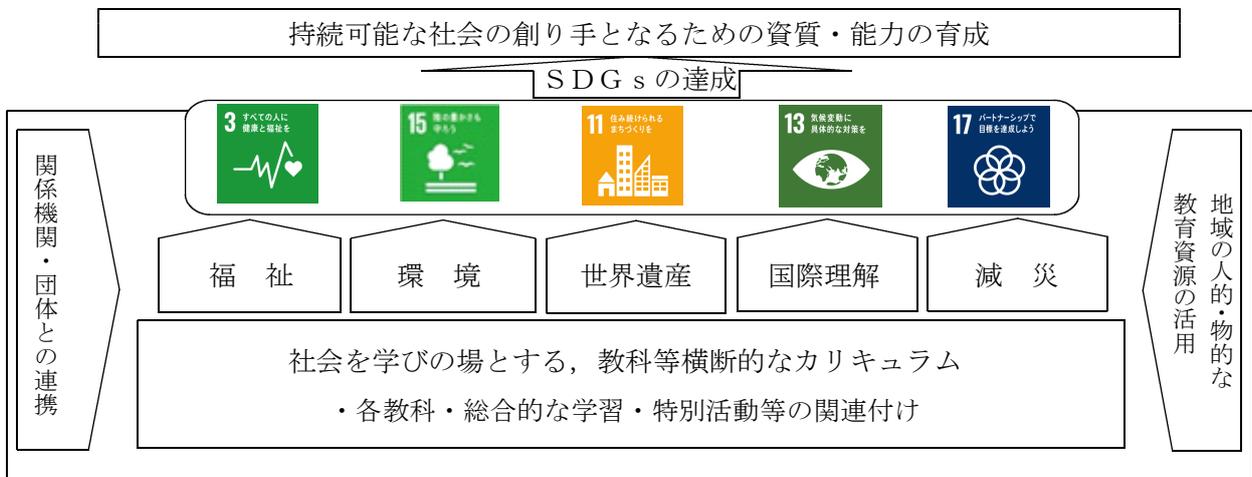


# 大牟田市立大正小学校

## 1 本校のESDの特徴

本校では、SDGs 3, 11, 13, 15, 17の達成を目指して、花でつながるあたたかいまちづくりを目指す「フラワータウンプロジェクト」、災害から命を守る「減災プロジェクト」や大牟田の世界遺産の価値や魅力を発信する「世界遺産のまち・おおむた発信プロジェクト」、環境について考える「集まれ生き物！みんなのビオトープ」などに取り組んでいる。社会や自然を学びの場として、そこで見つけた課題を解決する活動を行うことを通して、子ども達が持続可能な社会の創り手となる力を身に付けるようにしている。

## 2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画



「福祉」「環境」「世界遺産」「国際理解」「減災」をテーマとした学習を行う教科等横断的なカリキュラムを編成し、地域の人的・物的な教育資源を活用し、関係機関・団体と連携して実施している。

## 3 特徴的な活動事例

### (1) 大正フラワータウンプロジェクト

子ども達は、まちに花があふれ、人の心が花でつながるあたたかいまちになることを目指して、学校の花壇で花を育てたり、国道沿いのロータリーの花壇で地域の人々といっしょに花を育てたりしている。また、育てた花をお世話になっている人々に届け、感謝の気持ちを伝えている。本年度は、「銀水校区花いっぱい絆プロジェクト」に取り組む銀水小学校とテレビ会議を行って花の種を交換したり、豪雨災害で大きな被害を受けたみなと小学校に、ヒマワリやマリーゴールドの花を送ったり、松原中学校区の3校で大牟田市の花「ヤブツバキ」を植樹したりするなど、大正校区だけでなく、大牟田市全体に目を向けた活動も行った。



【みなと小にヒマワリの花を送った6年生】

## (2) 「減災学習」

1年生は、減災学習の導入として「こわかった おかいもの」という紙芝居を聞いて、地震から命を守るための行動を考える学習をした。子どもたちは紙芝居を聞いた後、「減災カルタ」づくりを行い、災害の種類や災害から身を守る行動を表現した。

4年生は、豪雨を想定した減災学習を行った。大牟田市防災対策室の指導のもと、子どもたちは校区内で水が流れる方向を知るために土地の高低差を調べ、分かったことを地図に表し、雨の時に水が集まり、深くなると予想される場所を見つけた。また、大雨に遭遇した時に避難する方向や場所を具体的に考え、発表した。

フィールドワークにより、減災の意識がそれぞれの学年でより高まり、行動につながる学習ができた。



【土地の高低差を調べる4年生】

## (3) 「集まれ生き物！みんなのビオトープ」

4年生は、学校の池とその周りをいろいろな生き物が集まるビオトープにしようと、「集まれ生き物！みんなのビオトープ」の学習に取り組んだ。大牟田市自然環境調査研究専門委員の松永様から、ビオトープの意味や生き物が生息するための環境について学んだ子ども達は、池の生き物の様子を観察したり、チョウを呼ぶための食草や花を植えたりするなど、多様な動物と植物がかかわり合う生態系をつくった。



【生き物が集まる植物を植える児童】

## 4 本年度の成果と課題

### ○成果

- ・子ども達は、コロナ禍や豪雨災害を経験する中で、人々と思いを共有し、ともに問題解決をしようと活動を工夫したり広げようとしたりする姿が見られた。
- ・「集まれ生き物！みんなのビオトープ」の活動が、「フラワータウンプロジェクト」とともに、自然への見方を深める環境学習になった。

### ○課題

- ・活動がまちづくりにつながるといった実感が持てるような、まちの人々との双方向のやりとりを工夫すること
- ・専門家を活用した環境学習や減災学習の充実をより一層図ること